



## 仕事で1を10にする

代表取締役社長  
安永 暁俊

昨年度、人材要件を一新しました。その中でC職群E職群の考え方として、仕事で1を10にする、1を10にする、0を1にするという概念をお伝えしました。各職群での基準を明確にして定義したつもりですが、難しい内容にもなっています。今回は、それを分かりやすく説明することで、皆さんの理解を深めてもらいたいと思います。

一般には、「会社から与えられた幾つかの業務を遂行するために、自分で考えて仕事を行う」と定義されます。つまり仕事とは、一つ又は複数の業務から成り立っています。一つの業務からなる仕事は、書類作成、電話応対、整理整頓などでしょうか。複数の業務からなる仕事は、問題解決、改善活動、全体に関わることなどでしょうか。

### 仕事で1を10、1を100、0を1にする

仕事で1を10にするというのは、社会人になっ

た時、部署が変わった時、皆さんが新しい仕事を始めて一通りこなせるようになることです。レベル1から始めてレベル10になるイメージです。

### 自分の役割を全うする

でも、どうやって自分の役割を果たせばよいのでしょうか？そのためには役になりきることがカギとなります。一日の仕事が始める前に、スイッチを切り替えて先発ピッチャーになるのです。スイッチを切り替えるとは、休日に家でくつろぐ自分から、会社で仕事する自分へ変身することです。役割の帽子をかぶるという表現もできます。

皆さんの中には、休日にくつろぐ自分があるものの姿であり、そのままの状態です。仕事したいと考える人もいます。ですが、多くの場合で仕事面を持った方が、スムーズに仕事に取り組みます。仕事面とは仕事で見せる顔のことです。なぜかと言うと、ありのままの自分と役割が一致しない場合があるからです。

例えば、皆さんの周りにいる保全業務をしている方を思い浮かべてください。社内の設備が故障したら直しますし、故障する前に予防保全に取り組んでいます。設備の異音や発熱などには人一倍敏感に気づく方です。ですが、その人が休日、自宅の家電から異音が発生しように気がしないかもしれません。家電が故障してもものんびり対応することもあるでしょう。同じようなことが、営業や技術、品質、生産、製造などの役割の人にも当てはまります。

そういう人が、ありのままの自分で仕事するとギャップに戸惑うでしょう。反対に、仕事での役割が大きくなってきて、いつの間にか、ありのままの自分が仕事での自分に近づくこともあります。私生活と仕事を切り分けて両立させていくために、仕事面を持つておくことは非常に大切になり

た時、部署が変わった時、皆さんが新しい仕事を始めて一通りこなせるようになることです。レベル1から始めてレベル10になるイメージです。

仕事のレベル10とは、上司から指示されたことを何とかこなせることが基準になります。皆さんの業務や仕事は何十種類もありますから、まずはレベル10に達する仕事を一つずつ増やすことになりす。当然ながら、書類作成は早めに習熟し、問題解決は時間が掛かります。

仕事のレベル100とは、その業務や仕事を完璧に理解して遂行できることです。自分で能動的に計画できる、目的志向でも考えられる、人にも教えられる、後工程や関連する隣の業務も分かっている、周りも含めて全体最適で考えられる等が基準になります。

### 仕事で1を10にする

今回は、仕事で1を10にすることについて述べます。技術や技能、知識の習得に近道はないので、コツコツやるしかありません。要領よくというよりも、愚直に習得したほうが後々で役に立ちます。では皆さんが一歩ずつ進むためにどうすればいいのお伝えします。

### 仕事をする上での仕組みを理解する

特に、学生から社会人になると環境もガラリと変わり戸惑うことが多く出てきます。仕事をする上での様々な仕組みを理解しておくことはとても

重要です。それが結果として、ありのままの姿や自分らしさを大切にすることも繋がります。

また長く会社に勤める中で、自分が求められる役割が時々変わることが多々あります。部署を超えて異動すると、営業⇄技術や、品質⇄製造など立場や役割がほぼ真逆になる場合もあります。そうした時に、役割の帽子をかぶりなおす意識を持った方が、皆さんも変化に対応しやすくなりますよ。

### 仕事のレベルを上げていく

仕事の仕組みと自分の役割を理解したところで、どうやってレベルアップしていけばよいのでしょうか？「習うより慣れよ」の部分から述べます。仕事で何をすべきか、頭でわかるだけでは十分ではありません。何度も繰り返すことで、身体で覚えてきます。直ぐに身体が反応するようにになると、レベル10が見えてきたと言えます。

参考文献にデザイナー奥山さんの本を挙げました。手が勝手に動くまでデッサンを何度も反復すること、大事な場面にたった15分間で、名車エンジンオフエアーを描き上げたエピソードが載っています。興味を持った方は読んでみてください。

仕事で3S（整理・整頓・清掃）を習うと思いますが、これは何も製造現場や事務機だけが対象ではありません。自分の頭の中を3Sすることがとても重要になります。どうすればいいのか？主観的な自分の意見と客観的な事実を分けて整理しておくことが第一歩となります。これらがごちゃ混ぜになってしまうと、うまく仕事が進みません。現地現物を徹底することも大切です。現地に向向き現物を見て何が起こったかを肌で感じることに、それが事実を正確に把握することに繋がります。

（2016年4月号）主観的な見方、客観的な見方

役に立ちます。

会社のほぼ全ての仕事はチームで行います。皆さんはチームプレイヤーになるのです。仕事でお金を稼ぐプロフェッショナルの社会人集団なので、アマチュアの学生集団とは意識が変わってきます。仮に、自分が野球選手でピッチャーだったと想像してみてください。甲子園のマウンドに立った時、その試合で何を目標としますか？トーナメントで敗退しない様に0点を目指しますよね？一方、プロのピッチャーとしてマウンドに立った時、その試合で何を目標としますか？プロの世界では、クオリティスタートが目標となります。これは、1回から6回までを自責点3点以内に抑えるという意味です。必ずしも失点0でなくて良いのです。自責点とは、味方のエラーが絡んで失点した場合、その分は自分の責任ではないという意味です。

プロのチームプレイヤーはどうしてこういう風に考えるのでしょうか？大きく分けて2つの理由があります。まず、リーグ戦で戦うからです。つまり1年間で勝率が最も高いことが重要であり、負け試合を予め計算に入れて計画しているからです。次に、分業制が徹底されているからです。ピッチャーには先発、中継ぎ、抑えが揃っており、それぞれが役割を全うすれば、チームの勝率が上がるからです。先ほどのエラーの話も、守備陣が役割を全うすることが大前提になっています。

そこから皆さんが考えるべきは、1年間通して力を発揮すること、そのためには自分のフォーム（軸）をしっかり持つておくことです。また、自分に課された役割を全うすることです。自分の役割を諦めずやり遂げたら、周りの方から褒められる認められますよ。皆さんに求められる役割（業務）は、小さなことから始まって、徐々に大きなもの

参照)

仕事をする上で、目的、目標、手段の概念が問われてきます。これらの違いを理解するには少しコツがいります。具体と抽象をわけて考えることが重要です。目的は抽象的なことが多く、目標を達成するためには、具体的な手段を重ねて目標に到達するために、計画の立案と進捗確認が重要になります。年度計画時に各部署で策定しますので、それを参考にしてみてください。（2018年9月号「手段の前に『目的』を明確に」参照）

段々と仕事に慣れてくると、1を10にできる業務が増えてきます。調子も出てくる頃です。そのころに落とし穴にハマりやすいのが、単純に見えて実は複雑な仕事になります。単純に見える業務で疑問を持たずに取り組んでしまい、実は複雑だった時に上手く対応できなくなります。業務に慣れてくると、何となく要領や感覚のようなものも醸成され、慣れればなるほど、落とし穴にハマった時は深くなりすので気を付けましょう！（2022年9月号「小さな変化に気づく思考」参照）

### 自己研鑽にも取り組もう！

以上、仕事で1を10にすることを述べました。新しい仕事を始めると、分からないことだらけで苦しくなります。ただし、皆さんの隣にいる涼しい顔した先輩も通って来た道です。皆さんも必ずできるようになります。仕事以外にも、あらゆる物事に興味を持って、自己研鑽に取り組むことも忘れない様お願いします。

参考文献

人生を決めた15分 創造の110000 奥山清行著